

## 南会津がつむぐ南会津ならではの社会教育

今年度、社会教育課では、「地域学校協働の推進」「家庭の教育力向上」「子どもたちの豊かな心の育成」の三つの柱をもとに、学校・家庭・地域が一体となった社会教育の実現をめざしています。そのうち「子どもたちの豊かな心の育成」の1事業で、7月9日（火）に下郷ふれあいセンターで開催した「読書活動支援者南会津地区研修会」について紹介します。

当日は、読書ボランティアの方や放課後子ども教室関係者、さらに小中学校の保護者や先生方など、60名の参加がありました。はじめに、KOTOSE音読教室代表の佐藤くみこ様（元IBC岩手放送アナウンサー）が「伝わる喜び！個性が生きる読み聞かせのために！」というタイトルで講演を行いました。参加者は歌舞伎の演目「外郎売」を教材に、滑舌のよい話し方などについて学びました。次に郡山市の読み聞かせボランティア「絵本の窓」の稲垣優子さん、加藤恵子さんからの実践発表や参加者同士の情報交換をとおして、多くのことを吸収することができました。

今後は、研修を積まれた方々が学んだことを実践し、子供たちの豊かな心や生きる力の育成に努めていただきたいと思います。



## 南会津夢教育学校紹介 ～ 南会津っ子一人一人の夢実現のために ～

### 只見町立只見中学校

### 「E S D教育の推進 ～海洋教育の視点を加えて～」

7月10日に、総合的な学習の時間の一環として新潟県上越市海洋フィッシングセンターで海洋体験を行いました。砂浜のごみ拾いで自然愛を高めるとともに、海洋資源の恵みについて学ぶことができました。海洋教育とE S D教育をからめ、現地で体験した2年生の生徒の感想です。

ごみを捨てるのは簡単だけれど、拾うのは大変です。汚すことは簡単だけれど、きれいにするのは大変です。このことに気付くことができました。これからはごみを捨てずにどのように減らすことができるかを、3R (Reduce, Reuse, Recycle) を考えて生活していきたいです。

たくさんのペットボトルやプラスチックのごみを拾いました。韓国や中国の文字が記されているごみもあって、びっくりしました。「これではいけない」と一人でも多くの人に考えてもらえればもっと良くなると思いました。

ビンや缶、ペットボトルなどがあると予想してごみ拾いをしました。実際には、その他に靴や携帯電話の部品なども漂着していて驚きました。海にはたくさんのごみがあり、環境にも良くないということを改めて感じました。



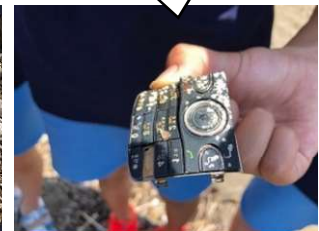
＜海岸でのごみ拾い＞



＜記されている文字の確認＞



＜回収した様々なごみ＞



＜漂着した携帯電話の部品＞

只見町は、海洋教育の視点を加えてE S D教育を推進しています。それを受け我が校は「只見町の未来へ～海とつながり、世界と結びつく～」をテーマに、普段、海を感じる機会が少ない生徒が実際の体験を通して海と只見の生活を結び付け学習を進めています。特に、川上に住む私たちが川をきれいにし、下流の人の生活を守っている、川と海はつながっているという意識を持たせながら、この学習を通して地域に学び、地域とともに生きる中学生の育成に取り組んでいます。

学んだ成果については、紅葉祭（只見中学校文化祭）、地域成果報告会などで発表しますので、ぜひ来校してください。



## 「繋がるバトン」

下郷町立旭田小学校  
校長 大桃 豊

私が岩手県で教員になり、初めて担任した子供たちが42歳を迎え、今年の1月、同級会に招待されました。当時の学級には乱暴者でしょっちゅう問題を起こす子もいれば、何事においてもやる気が感じられない子もいました。その子供たちがどんな大人になっているかととても興味がありました。しかし驚いたことに、どの子も立派な社会人に成長していました。成果が見えずその子供たちの将来を悲観していた当時の自分が滑稽に思われました。

人を育て成長させているのは教師だけではない。子供たちはその後の人生において、友や先輩や上司や様々な大人たちとの関わりの中で成長していく。そんな事に改めて気付かされました。

校長になった今、私が先生方に伝えたいことは、教師にとって大切なのは、今、目の前の子供たちに精一杯関わって、繋かれたバトンへの責任を果たし、後は次の大人へと教育というバトンを確実に繋いでいくこと。目の前に大きな成果が無くとも、このリレーが続く限り、子供たちは必ず成長していくことができる。私自身もそう信じてこれからも教育に携わっていきたいと思っています。



## 「感謝の連続」

檜枝岐村立檜枝岐中学校  
教頭 根本 顕治

本校の窓はどれも大きく、太陽の光がさんさんと校舎内に降りそそいでいます。その中でも最も大きな窓が私の右にある職員室南側の一枚ガラス。窓いっぱい広がる、覆い被さってきそうな山並みの稜線と青空のコントラストは、私の癒やしです。目の前には笑顔の似合う素直な子供たち。そんな環境で働くことのできる喜びをひしひしと感じます。感謝です。

一方で、新任教頭研修会での講話が身にしみず。「再就職したつもりで。」と言われたこの3ヶ月。教頭は教諭の延長にないことを痛感する出来事の連続で、まさに「再就職」。多くの失敗をしてしまった私ですが、校長先生をはじめ、周囲の先生方に支えられています。また、感謝。

単身赴任のため、父親不在の中、実母や妻が3人の娘たちの面倒を見ながら奮闘してくれています。

その3人も自立してきたとの話を聞き、たいへん喜んでます。こちらも感謝、感謝。

様々な方に「お体を大切に」と枕詞のようにいたわりの言葉をいただきました。みなさんに感謝です。この感謝の恩返しをできるようになることが今の私の目標です。

いきいき南会



## 「新任養護教諭として」

南会津町立荒海中学校  
養護教諭 小林 友貴

荒海中学校の生徒は、素直で明るく、優しい素晴らしい生徒たちです。特に感動したのはあいさつです。一度立ち止まりきちんと相手の目を見て「おはようございます」と元気にあいさつをします。中体連陸上大会では、自分の学校だけでなく、他の学校の生徒も全員が走り終わるまで応援をします。このような姿を見てとても感動しました。

この子供たちに、私はどのようなことができるのか考えました。臨時採用の養護教諭として勤務したとき、たくさんの尊敬する先生方との出会いがありました。先生方は、子供たちのことを第一に考え、子供たちのために精一杯取り組まれていました。そのような姿を見て私も頑張ろうといつも励まされていました。また、養護教諭の先輩方にもたくさんのことを教えていただき、支えていただきました。周囲の人々から信頼される先生方でした。私もそのような先生、養護教諭になりたいと思います。

まだまだ未熟な私ですが、南会津教育事務所長から辞令をいただいたときの気持ちを忘れず、今まで学んだことも活かしながら、子供たちのすこやかな成長のために精一杯取り組んでいきたいと思っています。



## 「故郷で教師としてできること」

只見町立只見小学校  
教諭 徳永 千聖

私は、3月まで東京都で教員として勤務していました。大学を卒業し、教職に就き、結婚出産をし、そのまま東京で仕事を続けるつもりでいました。しかし、いつもどこかで福島県で教員をしたいという気持ちを捨てきれずにいました。福島県での採用が決まったときは本当にうれしかったです。3ヶ月たった今でも故郷である只見町で教員をしていることが夢のようです。

着任して、今日まであっという間でした。故郷といっても、長い間離れていたこともあり、自然や郷土料理についての教材研究をすると初めて知ることが多く、戸惑うことばかりでした。そんな中、毎日楽しく過ごすことができたのは、子供たちや先生方、只見町の人たちの温かさがあったからです。それから着任式に50名の子供たちからプレゼントされた力強い校歌に感動しました。どんなことも全校生で助け合いながら乗り越えていく姿、何事にも素直にたくましく取り組む姿が大好きです。そして、先生方、保護者・地域の皆さんは、子供たちをしっかり支え、成長を温かく見守ってくださっています。私もその一員として、自分らしく子供たちを支え、故郷である南会津と只見町へ恩返しできるような教師になりたいと思います。

# 編集後記

「こども」「子ども」「子供」どの表記をしていますか。

小学校学習指導要領(平成29年3月)は「子供」の表記でした。表記は、変化しています。『子供』以外にも表記の仕方で悩んでいる漢字があるかと思います。変化していく理由などを調べてみるのも、漢字文化を理解する上でおもしろいかと思います。

ご多用のところ、玉稿をお寄せくださった皆様に心より感謝申し上げます。